

(様式3)

自己評価結果票

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んで きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	<p>地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている</p>	<p>晴天時にはまず外出を検討し、地域に溶け込む事を常々模索している。また、今までの暮らしを尊重し、買物や慣わし事(初詣)などに行く事が出来るよう支援している。</p>	<p>外出から戻る事で、帰る場=自宅という構図を描いて頂けるよう配慮し、また、地域行事の参加や商店での買物等で住み慣れる環境作りを目指している。</p>
2	<p>理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる</p>	<p>ご利用者の生活習慣に合わせられるよう、シフトマニュアル等に頼らず、職員相互の申し送りや話し合いを重視している。</p>	<p>気候や天候に興味を持ち、市の広報誌や案内でのイベントや催しがあれば積極的な参加を心がけている。職員・家族がわかりやすく共有できる理念の作成を目指し、会議やご家族会等の場で理念の浸透を図っている。</p>
3	<p>家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる</p>	<p>入居前の説明時やご家族会、運営推進会議や随時受け入れている見学等で、地域へ出向く事・外出先から戻る事が大切であるという理念の理解に努めている。また、生活への馴染みや活力を維持する為に地域との係わりが大切であると家族にも説明している。</p>	<p>地域の公的機関へ出向いた際、快く受け入れられている。近隣住民との共同作業等が検討課題である。</p>
2. 地域との支えあい			
4	<p>隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている</p>	<p>日常より近隣の人への挨拶・会釈を行い、特に季節の変わり目には、敷地境界付近の美化・害虫駆除に努めつつ、双方から声をかけられるような雰囲気作りに取り組んでいる。</p>	<p>外周の植木等を通じ、声をかけあいながら良好な関係作りに取り組んでいる。年末にはイルミネーションの装飾で地域の方々にも楽しんで頂いている。</p>
5	<p>地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている</p>	<p>近隣の小学校の図工展や、地域で開催されたフェスティバルに率先して参加している。</p>	<p>参加するだけでなく、地域の方に参加して頂く催しを企画し、親睦を深めたい。特養との連携にて地域交流スペースにて1ヶ月に1度児童館の場を設け、地域との係わりを深めている。</p>

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	<p>事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる</p>	<p>外観装飾等で開かれた施設・明るい雰囲気を出し、また、随時の見学者受け入れでグループホームの概要や特養との相違点等の説明をしている。また、特養と連携にて高齢者理解の講義の場を1年に3度開催し、地域の方も参加して頂いている。</p>		<p>ケアケア交流講座等、座学もさることながら、車イス体験学習等の実技や介護のコツを反映させたい。</p>
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	<p>評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び第三者評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p>	<p>特にユニット職員会議では、客観的な視点を持つように話あい、自己満足に落ち着かないよう促がしている。</p>		<p>評価を受けるにあたり、日常を振り返る良い機会と認識し、具体的な改善に繋げたい。</p>
8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>会議では活動報告と、職員で協議している項目を細かく報告している。委員から出た提言は、ユニット職員会議や、日常の申し送りで連絡し、封鎖的にならないよう配慮している。</p>		<p>報告・伝達に落ち着かず、委員に働きかけていける協議を目指す。</p>
9	<p>市町との連携</p> <p>事業所は、市町担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>事業者協会や施設部会を通じ、質の向上を目指している。また、文書や電子メールのやり取りで、意見の行き来は日常的に行なっている。</p>		<p>会議以外でも気軽に来所頂く機会・雰囲気作りを目指す。</p>
10	<p>権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している</p>	<p>現時点で、該当する利用者は存在せず。権利擁護に関する制度等、法人内の研修委員会を中心に学ぶ機会は確保している。</p>		<p>社会福祉協議会と連携を図り、日常生活自立支援事業等の学習に努めたい。</p>
11	<p>虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>法人内、研修委員会を中心に学ぶ機会を確保し、細かな状態変化も常時報告する旨促がしている。</p>		<p>関連する記事や、報道にも注視し、常に振り返る姿勢を保つ。また、特変時の記録を徹底する。</p>

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>		<p>特に関心の高い、利用料金や長期入院時の説明には時間をかけて説明している。</p>
13	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>		<p>ご利用者の意見・訴えを発言できる環境、傾聴する姿勢を心がけている</p>
14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている</p>		<p>ご家族の意見を反映し、さらに分かりやすい報告を目指したい。</p>
15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>		<p>賛同頂いている意見も取り上げ、職員のモチベーション向上に繋げたい。</p>
16	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>		<p>直接介助に携わる職員の意見を真摯に受け止め、ためらう事のない発案に繋げたい。</p>
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>		<p>ご利用者の体調の変化・入院・通院等の急変時がある事も職員に説明し、相互協力しながら勤務調整している。</p>

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
18 職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	各種慰労会等の開催、互助会活動での福利厚生、希望に近い勤務シフト考慮等をもとに、離職を必要最小限に抑えるよう努めている。人事異動等、配置が換わる場合の利用者へのダメージ防止は行なえていない。		。異動や離職時にはご利用者に不安を与えず、業務の遂行を円滑に図れるよう引継ぎを行っている。併設する特養や在宅部門との兼ね合いも考慮し、極力ダメージを防止したい
5.人材の育成と支援			
19 職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外への研修には積極的に参加させ、OJTへの意識も高く持っている。定期的に人事考課を行い、自分自身で成長していく為の計画をたてている。		ご利用者の状態の変化に伴い、排泄・移乗等の介助方法を指導し、ご利用者に応じた個別ケアを行っている。
20 同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	最重要項目の一つとして捉えているも、相互訪問などの具体的な取り組みにはいたっていない。		ネットワーク作りや相互訪問の機会を大いに増やしたい。
21 職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	非常勤職員は主婦層が多い為、出来るだけ希望の勤務時間帯に応じてシフト調整を図り、勤めやすい環境作りに取り組んでいる		業務・人間関係への不安・不満が発言・相談でき、ストレスが軽減できる環境を継続して取り組んでいきたい。
22 向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	定期的な人事考課をもとに、自分自身で目標を設定し、振り返りながら、向上心を持って働けるよう努めている		介助方法・利用者への接し方などの不安なこと・分からない事がすぐに聞ける環境を作り、その都度指導している。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>ケアマネジャーやご家族からは求めている事や、不安な事は多く聞けているが、本人自身からは利用開始後にしっかり聴く時間をとっている。利用開始後にご利用者の思いや・状態を観察・把握し、職員への申し送りを徹底している。</p>	<p>初期段階でもご利用者自身から聴き取れる時間を多く設け、不安の解消に努める。</p>
24	<p>初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>特に関心の高い利用料金や、介護度の区分変更、長期入院等については細やかに説明し、不安解消に努めている。</p>	<p>平行して、居室を空け続ける事が出来ない事や、重度化した場合の対応についても説明し、了承を得ながら不安解消に努めている。</p>
25	<p>初期対応の見極めと支援</p> <p>相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>差し迫ってるケースの相談を受けた際は、隣接する特養や在宅部門とも連携し、必要な援助に努めている。</p>	<p>申し込みのお問い合わせの際に、地域密着型サービスである事、認知症対応型共同生活介護である事も説明し、市外の方や認知症が無い方等へはケアマネジャーや地域包括支援センターへの相談が出来る旨説明している。</p>
26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>随時の見学受け入れと、ご自宅で使用されていた家具の持ち込みを依頼し、馴染みの生活環境作りに努めている。</p>	<p>グループホームに馴染める為に、あえて数日は面会に来られない方など、ご家族の意向も確認し、個別に対応している。</p>
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27	<p>利用者と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、利用者を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、利用者から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>調理や衣類の修繕、洗濯物の整理等は協働し、また、喫茶時は同じテーブルを囲むなどして共に過ごしていける関係作りに努めている。また、作業や会話の中で生活の知恵や思い出を引き出し、一緒に楽しめる環境作りに努めている。</p>	<p>方言や、使われていた外国語等、言語を教わったり、出生地の風土や、名産品等を教わりながら、コミュニケーションの幅を広げている。</p>

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
28 利用者と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に利用者を支えていく関係を築いている	毎月の手紙や、広報誌などで絶えずコミュニケーションを保ち、また、外出行事や施設内行事にも参加の呼びかけをし、良好な関係作りに努めている。		運営の理解を得ながら、ご家族も楽しめる催しを企画し実施している。
29 利用者や家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの利用者や家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	ご利用者・ご家族双方の意向を伺い、必要に応じては来訪の依頼や、一時帰宅を交えて従来の家族関係の維持に努めている。		常時 面会時等にてコミュニケーションを図り、依頼される・する関係作りを築いていけるように心がけている。
30 馴染みの人や場との関係継続の支援 利用者がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	希望に応じ、個別に対応している。		グループホームに入居している事を前面に出さず、ご家族の理解を得ながら実施している。
31 利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	相性等を観察し、必要に応じて居室変更も考慮している。ご利用者の会話や様子を観察し、共同作業と一緒に取り組んで頂く・距離間を置く等その場の状況に応じ、円滑な関係が保てるよう援助している。		居室・リビング以外に居場所、和める場所を作り、関わりあいつつも、少し距離もとれるよう配慮したい。
32 関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	希望に応じ、個別に対応している。		ご利用中の写真や思い出の品をお渡しする等、関係性を保っている。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
1.一人ひとりの把握			
33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>訴えのある方は、継続的に発言して頂くよう声かけている。発言しやすいような言葉掛け、選択しやすい問いかけにて、意向の把握に努めている。</p>	<p>訴えにくい方への代弁を見極め、職員の都合にならないよう配慮したい。</p>
34	<p>これまでの暮らしの把握</p> <p>一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている</p>	<p>契約時や入居後のご家族の面会時等に生活歴や趣味・特技を伺い、また、ケアマネジャーより情報を得ながらサービス利用の経過等の把握に努めている</p>	<p>ご利用者から従前の暮らしを伺い、特技や趣味を伺いつつ、可能な範囲で取り組んでいる。</p>
35	<p>暮らしの現状の把握</p> <p>一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている</p>	<p>毎月開催しているユニット職員会議では、最新情報の交換をし、日々の状態は集約シート等で総合的な把握に努めている。個別情報を集約・検討し、家族へ情報を提供している。</p>	<p>心身状態は、診療所とも連携し、報告・連絡・相談を定着させている。</p>
2.より良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>利用者がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>ご利用者・家族の意向、毎月開催しているユニット職員会議以外にも、併設する特養の管理栄養士や診療所との連携で意見をj得て介護計画を作成している。</p>	<p>介護計画の意義や必要性を研修し、課題やサービス内容を職員間で話し合い、気づきの視点を向上させたい。</p>
37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、利用者、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>特変が生じた際は、ご利用者・ご家族、必要な関係者と話し合い、随時見直しをしている。</p>	<p>特に排泄に関わる事柄は、慎重に協議しながら見直しと改善に努めたい。残存能力の低下・精神的不安定等が生じた時には観察・検討し、計画に見直しを行なっている。退院後にも病院での状態を把握し、心身機能が向上できるように計画を見直しをしている。</p>

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子は個別にパソコン入力し、特記事項は日誌に反映して情報の共有に努めている		各種連絡ノートの活用で情報の共有に努め、また、毎月開催されるユニット職員会議で情報交換をしながら見直しを図っている。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	事業所の多機能性を活かした支援 利用者や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	併設する特養と合同で、季節に応じた行事の開催や、ボランティアによるイベントに参加している。		参加する事が多い為、逆にグループホームへ参加頂く企画や支援を展開したい。
4. より良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	地域資源との協働 利用者や家族等の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	近隣地域はもとより、他市町の文化・教育機関等の協力も得ながら支援している。		特養と連携にて年に一度消防より防災訓練・緊急時の対応・AED研修を行っており、さらに警察・消防との関係作りを深めたい。
41	他のサービスの活用支援 利用者や家族等の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	通院時、移動介助に有償ボランティアの活用を図るも、他のサービスの活用支援は行っていない。		意向・必要性があれば支援する。
42	地域包括支援センターとの協働 利用者や家族等の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	利用者の強い希望がみられた際は、在宅復帰に向けてご家族と協議し、地域包括支援センターと協働している。		地域包括支援センターから問い合わせや入居申し込みがあれば、過去の実績や現在の待機者等を適切に応え、良好な関係作りに努めている。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
43 かかりつけ医の受診支援 利用者や家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所前の契約時に協力医療機関の説明を行い、緊急搬送先はご家族にて同意・決定して頂いている。また、ご家族の理解を得て、併設診療所やかかりつけ医との連携を図っている。		特変時は併設診療所の指示を仰ぎ、必要に応じて総合病院や、従前よりかかっていた医療機関へ受診できるよう支援している。
44 認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	状態が不安定な方を中心に、専門医の往診を受けられるよう、併設する診療所と連携を密にしている。		2週間に1度、定期的な往診を受け、職員からも相談出来る体制がある。
45 看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	毎日の内服薬配薬時以外にも体調不良等がみられればすぐに相談できる体制がある。夜間はオンコール体制をとり、24時間体制を確保している。		医療行為以外でも、共に喫茶を楽しむような空間作りに努めたい。
46 早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	早期退院に向けて情報交換や相談に努めている。		退院のめどがつけば、病院関係者と相談し、情報を得ながら、円滑な復帰と、リハビリ等の調整に努めている。
47 重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から利用者や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	ご家族会等で方針を示している。併設診療所とも、研修の実施や情報の共有に努めている。		ご利用者・ご家族の意向に添えるよう整備しておく。
48 重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	併設する診療所や、法人内研修委員会を中心とし、家族の協力の大切さ、終末期の体調の変化の様子・対応、事業所の出来ること・出来ないことの研修を行っている。		今後の変化に備えた準備をする。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
49	住み替え時の協働によるダメージの防止 利用者が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	ご家族・スタッフへは中長期的に混乱が予想される事を事前に説明し、多方面から観察する事、気づいた点を記録し情報交換・提供するように努めている。ご利用者が別の居所へ移った際も、馴染みの職員が面会に行くなどし、ダメージの軽減に努めている。		逆に、グループホームに移る前まで住まわれていた関係者も随時受け入れている。
・その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
1. その人らしい暮らしの支援				
(1) 一人ひとりの尊重				
50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	必要に応じ、呼称を部屋番号に替えて情報の共有を図る等し、プライバシーの確保に努めている。また、守秘義務の研修を行いプライバシー保護に努めている。		特に、施設外での会話は慎重になり、『ゆり 号様』等、氏名を口に出さないようにしている。
51	利用者の希望の表出や自己決定の支援 利用者が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	個別に説明を行い、拒まれる事も前後の状態観察から容認しながら自己決定の支援に努めている。自己決定が難しいご利用者には、選択方法の提示・家族に電話などで確認し、個別対応に努めている。		訴える事が困難な方には、職員主導にならないように注意しながらクローズドクエスションに努める。
52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	出来るだけ利用者毎のペースに合わせているが、その日毎の希望に沿った支援は行なえていない。		まず、食事・入浴については一人ずつのペースに合わせられるよう努める。
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
53	身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	身だしなみは清潔なものをお渡しするよう心がけている。理容・美容について、希望があれば個別に支援している。ご自身で化粧等をされ、おしゃれを楽しまれている方も居り、家族への連絡や日々の買い物にて化粧品等の補充を援助している。		ご家族の協力も得ながら継続して支援する。

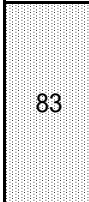
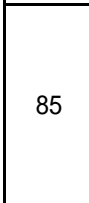
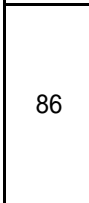
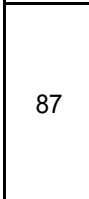
項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
54	<p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>		<p>選択メニューの提供。検食簿の意見や感想を今後の調理の改善策に繋げていきたい。</p>
55	<p>利用者の嗜好の支援</p> <p>利用者が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p>		<p>DM食の方も、ご家族や関係者の意見を伺い、可能な限り、制限のない食事を提供している。</p>
56	<p>気持ちよい排泄の支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している</p>		<p>便秘の際、下剤を一番に考えず、腹部の状態観察や水分補給、適度な運動を促しながら、自然な排便に繋がるよう支援している。</p>
57	<p>入浴を楽しむことができる支援</p> <p>曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している</p>		<p>希望時・随時入浴を目指す。</p>
58	<p>安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している</p>		<p>居室と共用スペース以外の居場所・空間作りに努める。</p>
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
59	<p>役割、楽しみごと、気晴らしの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている</p>		<p>生活歴を活かした支援に努める。</p>


項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
60	お金の所持や使うことの支援 職員は、利用者がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族の意向も踏まえ、必要に応じた支援をしている。購買部への付き添いも率先して行なっている。		不安を助長しないように注意し、日用品程度、お菓子程度の買物はその都度対応している。
61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	気候や諸条件を勘案して、日常的に外出の支援をしているが、一人ひとりのその日の希望には応じきれしていない。		私物の購入等、個別対応の外出支援も目指す。
62	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	季節や時期に応じ、ご家族を交えた外出支援に努めている。		外出は日常茶飯的に行い、普段行けないところへも季節に応じて機会を設けている。
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に利用者自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望時に個別に支援している。		入居・契約の際には自室に電話を引ける旨説明し、希望時は業者との連絡も支援している。
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、利用者の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	面会時間や見学時間等は設定せず、気軽に訪問できるように配慮している。		来訪者に、ご利用者との関係は向うも、気軽に面会できるよう誘導し、必要に応じてテーブルやイスを搬送している。
(4)安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人内の研修で意識を高め、理解している。日々の申し送りやユニット職員会議等で疑問点をあげ、常時振り返っている。		拘束の範囲を振り返り、見落としのない介助に努める。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
66 鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	特に玄関は開錠するように心がけている。居室の施錠は原則認めていない。		ご利用者の意向も伺い、施錠を希望されたら柔軟に対応している。
67 利用者の安全確認 利用者のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	食事時以外に定期的な喫茶、リネン交換や定時巡回にて安全確認を行なっている。夜間は2時間毎に巡回を行っている。		1・2階の移動時も内線などで常に連絡を取り合っている。
68 注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	注意が必要な物でも、家庭的・日常的にあるものならば、一律に排除はしていない。利用者の著しい変化があった際は臨機応変に対応している。		家庭的な雰囲気を損なわないよう注意しながら、誤飲を誘発しないような保管に努めている。
69 事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	法人内の事故防止委員会を中心に、再発防止に努めている。状況に応じ、居室変更等も検討している。事故・ヒヤリハットの報告書の回覧や会議等で事故再発防止に努めている。		事故発生の確率が高い方は、職員待機ブース前の居室に設定し、見守りを強化している。
70 急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	法人内の研修委員会を中心に、各種研修を開催・参加しているも、不定期で全ての職員には至らず。但し、研修資料にて確認している。		全ての職員が正しい初期対応を習得出来るよう心がける。
71 災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日頃より地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	緊急時避難マニュアルを掲示し、また、ご利用者が全体的に移動する際は避難場所を示している。合同防災訓練等にも参加し、地域の人々との良好な関係作りに努めている。		直近の近隣住民の方への協力要請や、逆に避難所として使用出来る環境作りを目指す。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
72	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	契約時以外にも抑制や身体拘束について説明し、起こり得るリスクに理解を得ている。		転倒やずれ落ちが多いご利用者で、ご家族から抑制の依頼をされても、まずは出来る限りの対応を練る旨説明し、理解を得ている。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気づいた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	ヒヤリ・ハット報告以外にも連絡ノート等の活用で情報の共有に努めている。体調の変化に気づいた際には診療所に指示を仰ぎ、また、家族に報告している。		夜勤者への申し送りや、夜勤者からの申し送りを確実に行い、継続した情報の共有に努めている。
74	服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	併設する診療所と連携し、受診結果以外にも情報を得ながら確認に努めている。配薬確認表を作成し、服薬管理に努めている。		適宜、ユニット職員会議でも最新情報の交換を行い、また、処方箋一覧表をもとに、用法や用量の確認に努めている。
75	便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	併設する診療所と連携し、第一に自然な排便を心がけるよう配慮している。便秘傾向の方へも水分摂取量を確認しながら予防に努めている。また、定時に排便の有無の確認を診療所に報告している。		自立でトイレに行かれる方の排便の有無確認に努める。
76	口腔内の清潔保持 口の中の汚れやにおいが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援を心がけているも、毎食後には至らない。		定期的に往診される歯科医と連携を保ち、不具合が生じた際は早急に治療出来るよう支援する。
77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	趣味・嗜好を伺いながら、食事量の観察に努めている。希望時は個別に提供している。		毎月の体重の観察も怠らず、著しく増加傾向の方へは個別に盛り付けの量を減らす等、状態に合わせて支援している。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
78	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肺炎、MRSA、ノロウイルス等)	法人内、感染症対策委員会を中心に、各種研修に参加し、また、診療所からの指導のもと、予防には敏感に対応している。		法人内で感染症予防月間を定め、対象月は特に注意している。職員で、体調不良の申し出が有り、感染症の疑いがあれば、出勤停止を命じている。
79	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	食品衛生の3原則を心がけ、食材も概ね向こう3日分までの買出しや、取り置き検食を実施し、毎食後の検食簿の記入も怠らない。食材の賞味期限・鮮度を確認し、調理を行っている。		特に肉料理や魚料理の後は、消毒や殺菌に努めている。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関周りにベンチを置いて、憩いの場を設けている。		園芸ボランティアと協議し、手入れがしやすく、華やかな草木の植え込みを検討している。
81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	外出先での写真を多く張り出し、生活感や家庭的な雰囲気が出るよう配慮している。隣接するマンションへも考慮し、不快な音や光がないように努めている。ご利用者と一緒に装飾(鏡餅・雛人形・クリスマスツリーなど)をし、季節を感じて頂けるよう配慮している。		観葉植物等を積極的に取り入れ、季節感が味わえつつ、気持ちの良い環境作りを目指す。
82	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居室、食席以外にも過ごせる場所を設け、希望時や気分次第で利用頂いている。		ご利用者同士が居室で談話される事も多い為、所在確認を徹底しながら、気のままに過ごせるよう配慮している。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83  居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、利用者や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、居心地よく過ごせるような工夫をしている	契約時以外にも馴染みの家具や食器を持参頂くよう依頼し、居心地よく過ごせるような工夫をしている。		ご家族の意向で、家具が稀少な方へ、自身で作成した工作等を配置し、居心地よく過ごして頂ける環境作りに努める。
84 換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	定期的な換気以外にも必要に応じて空気の入替えを行なっている。室温も適切に見極めて、暑すぎず、涼しすぎないよう配慮している。		環境保護への意識も持ち、適温の温度調整に努めている。
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
85  身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	床面はバリアフリーで段差は解消している。手摺りは要所に有り、自立した生活を送れるよう配慮している。入浴は個浴で有り、浴槽への跨りを見極めている。		歩行状態が不安定な方は、リビングに近い居室を設定しつつ、機能維持の為に付き添いながら歩行を促している。
86  わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	孤立しないように、また、プライバシーに配慮しつつ、個別に出来る事を見極め、必要に応じて張り紙等で居室やトイレの案内をし、自立して暮らせるように配慮している。衣類への混乱が著しい際は、個別に預かる等配慮している。		生活導線を把握し、普段と異なる際は特に注意して観察している。
87  建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	外周りやベランダへの活動は消極的である。		近隣住民の理解を得ながら、簡単な自家栽培等も視野に入れて、活動に繋げたい。

( 部分は第三者評価との共通評価項目です)

. サービスの成果に関する項目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を 印で囲むこと)
項 目		
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の 利用者の2/3くらいの 利用者の1/3くらいの ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある 数日に1回程度ある たまにある ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と 家族の2/3くらいと 家族の1/3くらいと ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように 数日に1回程度 たまに ほとんどない

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該 当 する 箇 所 を 印 で 囲 む こ と)
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている 少しずつ増えている あまり増えていない 全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	ほぼ全ての職員が 職員の2/3くらいが 職員の1/3くらいが ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が 家族等の2/3くらいが 家族等の1/3くらいが ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

全食グループホームでの調理実施で、誕生日や祝祭日は特に希望に応じた食事を提供している。年に2回は遠方への外出行事を企画し、季節を感じて頂いたり、気分転換を